

豊友会会報

大分市下郡字長谷496-38
大分県教育会館内
大分大学教育福祉科学部
同窓会「豊友会」
編集兼 仲道俊哉
発行人
TEL 556-0145
bundai-hoyu@fuga.ocn.jp
印刷所
明文堂印刷
TEL 533-8800

本年度の事業計画 予算案等承認

一層の結束を誓い合同一

本年度の評議員会(総会)が五月二十六日、県教育会館で開催された。関係者百二十四名が出席、まず、昨年度物故者七十六名に黙祷。あいさつでは、はじめに仲道俊哉会長、新しい同窓会のあり方について、「本会のように地域に組織をもつ同窓会は他にない。より一層地域との連携を図るとともに、大分大学として各学部同窓会との交流を深めることが大切」と強調。次に母校の平田利文学部長、「卒業生の皆さんが卒業後も結束を深めていることに敬意を表する。また少子

化は教員採用に直結。本県は全国で三位の教員採用試験が難しい県となっている。そのなかで本学部は高い評価を得ている。これも皆さんのおかげ」と同窓会の支援、協力に謝意を表明。次に来賓祝辞では、代表として、経済学部同窓会がT教育事務所に勤務していた頃のある日町内のA小学校の保護者約二十人ばかりが陳情にやってきました。普通ならば市教育委員会に行くところであろうが何故か教育事務所にやってきました。陳情の要旨は「小学校〇年生の担任が病気で長休となり代替の若い臨時講師に教わるようになった。日時が経過する程に子ども達が変わってきた。家を出る時の目の輝き、行ってきましたの弾んだ声。どの子どもも学習意欲が旺盛になってきた。やがて学年も終りになる頃病休の先生が復帰して再びこの子ども達を担任することに。保護者達は今の状況をつづけて欲しい」と

評議員会の前には、講師 元大分大学学長 野村 新先生 演題「新しい知の教育の創造と教育制度改革」中教審の主旨である立場から教育改革に関わる最新のお話を聞くことができました。「愚直・誠意をもって指導に取り組み教師こそ大切」と言う先生の現場主義で、常に変わらぬ教育への情熱には感銘を受けました。窓会(桜樹会)会長古田佳代子氏を紹介。議長に竹田支部長の渡部重朗さんを選出し、議事に入る。平成十八年度会務・決算・監査報告、平成十九年度事業計画、予算が提案されいずれも承認された。また、組織の拡大、会則の一部改正、会員名簿の改定、発刊が決定された。他に来賓として医学部看護学科同窓会が決定された。

終わりに、八年間の永きに亘り事務局長として努められた園田和孝氏に仲道会長から感謝状と記念品が贈呈。評議員から労いの拍手が送られ総会を閉じた。

「出会い」に感謝 大分市大石町 佐藤 啓成 (昭和33年卒)

このたび、平成十九年度春の叙勲に際しまして瑞宝双光章拝受の栄に浴し感謝しています。五月九日朝、伝達式に出席するため、妻とともに大分を出発、夕方、東京に着きました。五月十日、午前十時にホテルを出発し、伝達式会場に指定されている国立劇場大劇場へ向かいました。着いてみると、番号別の受付はどこも長蛇の列で、その多さに驚きました。午後零時二十分、伝達式が始まりました。文部科学副大臣から代表者に勲記並びに勲章が授与されました。そのあと、担当の係官から私共にも勲記、勲章が伝達されました。その後、バスで皇居へ向かい、何らかの役割にたてられるよう力をつくします。



平成19年度評議員会

随想

ちかごろ思うこと



同窓会 常任評議員 比 永 寿 男 (昭和19年卒)

私がT教育事務所に勤務していた頃のある日町内のA小学校の保護者約二十人ばかりが陳情にやってきました。普通ならば市教育委員会に行くところであろうが何故か教育事務所にやってきました。陳情の要旨は「小学校〇年生の担任が病気で長休となり代替の若い臨時講師に教わるようになった。日時が経過する程に子ども達が変わってきた。家を出る時の目の輝き、行ってきましたの弾んだ声。どの子どもも学習意欲が旺盛になってきた。やがて学年も終りになる頃病休の先生が復帰して再びこの子ども達を担任することに。保護者達は今の状況をつづけて欲しい」と

- ### 平成19年度事業計画
- 1 会員意識の高揚
 - ・「豊友会会報」の年3回発行 (7月、11月、3月)
 - ・「同窓会会員名簿」の改訂、発刊
 - 2 支部組織の拡大・強化
 - ・合併に伴う地域等、地域支部の強化
 - ・職域支部の拡大
 - ・関係団体との連携
 - ・支部長会議の充実
 - ・支部女性代表者懇談会の開催
 - 3 支部活動の促進
 - ・支部総会の開催
 - ・教育文化講演会の開催 4支部 (宇佐市、大分市大在、臼杵市、日田市)

公民館での女性学級に招かれて行くこと、活発な意見の中で、高齢者社会や少子化時代という言葉が飛び交っている。高齢者福祉と教育の問題は、今では地域住民の主な課題の一つのようだ。でも一方、街中から少し山地向入ると、まだ知恵袋を持った地域のお年寄がたぐさん居て、子育てが向う三軒両隣方式で営まれている現状がある。先日、政府の教育再生会議第二次報告では、現在の道徳の時間を徳育として、教科化する提言がなされた。折角の提言も、地域の隠れた教育力に眼を向けたいと、生かされない恐れがある。現在の教育課程の中で、やや横に置かれた道徳を見直すいいチャンスと思う。高齢者の知恵は、明治以降培われた貴重な知恵袋なのだ。小生、毎日多くの高齢者に接しているが、認知症の高齢者も思ったより、不見識も甚だしい事になる。過去の事は鮮明に頭の中の筆筒に、きちんと整理されている。教育再生会議の提言が出された今、一人ひとりが「子どもにとって本当に何が必要なのか」考えないと、提言も絵に描いた餅にならねない。

中津保護区保護司会
会長 高 裕 忠 隆

おめでとうございます 栄誉に輝く同窓生諸氏 春の叙勲

- ◎瑞宝中授章 吉田 正 雄氏 (昭和23年卒)
 - ◎瑞宝双光章 佐藤 啓成氏 (昭和33年卒)
 - ◎瑞宝双光章 高 裕 忠 隆氏 (昭和29年卒)
 - ◎瑞宝双光章 平川 正 芳氏 (昭和25年卒)
- 大分市大石町五-三
大分市光吉新町二-一
大分市大石町五-三
中津市一ツ松五八七-九
別府市亀川四の湯町二-九

高年齢者の知恵袋に学ぶ

豊友